現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和７年１月

（１）～農薬散布の軽労化に向けて～農家自作無線式防除機の普及を検討

沖永良部では，地元農家が開発・製造した無線式防除機の評価が高く，多くの農家が導入を希望しています。しかし，開発者は農作業の合間に製造するため，納期の長期化や本業への負担増などの課題があります。このため和泊町グリーン化推進協議会では，本機の農薬散布調査や製作企業を募集しています。１月 16～17 日には，製作候補企業３社や農業機械担当専門普及指導員を交えた検討会が開催され，製造上の課題や改良点について意見交換をしました。農業普及課は，今後も町や農家と連携し，当防除機の普及に向けて支援します。

（２）子牛セリ前研修で，肉用牛特有の収支計算等を学ぶ

１月６日と７日の両日，沖永良部家畜市場において子牛セリ市前研修会が開催され，約 30 人が参加しました。農業普及課の畜産担当者が講師となり，肉用牛の収支計算時に必要な子牛の棚卸し，育成費，減価償却費の計算方法などを指導しました。参加者は，肉用牛の経営状況が厳しい中で，正しく収支計算を行い，自分達の経営状況を把握することの重要性が理解されました。また，所得向上のためには，自給粗飼料の生産拡大が重要であることについての理解が深まりました。

（３）高品質マンゴーの生産に向けた研修会を開催

１月９日，知名町で生産者及び関係者約 40 人が参加した「マンゴー栽培研修会」が開催されました。室内研修では，生産者による宮古島での先進地研修の報告のほか，農業開発総合センターの講師からのマンゴーの着果を安定させるための管理ポイントの説明がありました。その後，パッションフルーツに関する情報も提供されました。研修後には，町内の２園地の生育状況や着果状況を確認し，情報交換を行うことで，令和７年度産マンゴーの生産に向けた意欲が高まりました。

（４）「咲八姫」秋の大雨のため今期の出荷量減少を懸念

１月８～９日，沖永良部島で生産者や関係機関14人が参加し，「咲八姫」現地検討会が開催されました。和泊町２人，知名町３人の生産者ほ場を巡回し，生育状況の確認や意見交換，栽培技術の助言をしました。今期の定植球数は約５万球（前期比約1.4倍）で，２月下旬から４月下旬の出荷が見込まれます。しかし，10～11月上旬定植直後の高温や大雨などの影響で球根の腐敗や疫病が発生し，出荷量の減少も懸念されています。農業普及課は，今後も生産者や関係機関と連携し，「咲八姫」の安定出荷を支援します。